



NPO法人 北摂子ども文化協会
Hokusetsu Children Culture Association

VOL
44

ハツクルベリ

- 北摂子ども文化協会事務局
〒563-0024 池田市鉢塚3丁目4番13号
TEL:072-761-9245 FAX:072-761-9244
hokusetsukodomo@wombat.zaq.ne.jp
- 北摂子ども文化協会豊能事務所
〒563-0101 豊能郡豊能町吉川336-1
TEL:072-738-3435
- 北摂子ども文化協会西天満事務所
〒590-0047 北区西天満3-8-4朝日プラザ西天満101
TEL:06-6948-5380

Home Page URL <http://hokusetsukodomo.com/> ※検索サイトからは、「北摂子ども」で検索！



2014年8月17日 第13回いけだ夢燈花(水月児童文化センター前ステージ)

Contents

もくじ

無から有を生む・有を有のままに	2・3
実践「ひと山まるごとプレイパーク」の分析 ―経過報告―	4・5
子育てエッセイ：やまGの育G日記	6
コラム☆おすすめの本／エッセイ	7
イベント・行事案内／入会案内／編集後記	8

無から有を生む・有を有のままに



北摂子ども文化協会がNPO法人になって14年が経ちました。主婦が中心の市民団体が、法人格を有することになった経緯は、北摂子ども文化協会が初めて出版した「法人格を取っちゃった！」で詳しく報告させていただいております。

まさに無から有へのチャレンジでした。当協会が法人格を取得することになる以前に、議員立法により国会で審議が重ねられ、1998年にととう「市民公益活動促進法」として誕生したのです。公共事業に市民団体が参入できるチャンスができたのです。

振り返ってみると勢いがありました。一主婦だった私も、国会請願に行ったり、請願デモにも参加しました。

市民が主役の新しい社会システムを構築する、というスローガンは、公益活動を自負しながらも共益活動の枠組みにジレンマを感じていた当協会に、勇気と喜びと未来への希望へ繋がるものでした。

見事目的達成した私たちは、今までの活動内容、範囲、展望を見直し、拡大、充実させてきました。その先に、池田市との指定管理契約が生まれたのです。2001年10月より、池田市立水月児童文化センターの管理運営を委託されることになったのです。NPO法人になって2年目のことでした。このことの経緯は、当協会にとって2回目の出版となる「指定管理を受けちゃった！」に詳しく掲載しております。当時このような公共施設を民間に委託するのは、全国でもあまり例の無いことでした。全国に先駆けた画期的な行政改革として、マスコミや自治体に大きく取り上げられ、池田市の英断は高く評価されました。

これも無から有の取り組みです。ないものを生み出すには多大な課題があります。乗り越えるには英知が必要です。でも毎日がわくわくしていましたね。これは池田市の英断が無ければできなかったことです。その後全国の自治体から多数要請があり、公共施設の民間委託に至る経緯と実情、いわゆる費用対効果等々を講演して回りました。ご存知の様に、あれから十数年、現在では公共施設、公共事業の民間委託は当然の行政施策となりました。当協会も水月児童文化センターの他、豊中市立庄内少年文化館の文化事業委託もお受けしています。誰もしていないことを実現させた池田市の英断は、つくづくすごかったと思います。まさに無から有を生み出し、全国へ波及する影響力だったと言えるでしょう。

このように、何も無い、先が見えない中で、見定める力、先を読む力はどのように獲得されていくのでしょうか。ぶれない目的意識、コンセプトの確立。共有、多岐にわたる情報の収集、時流の先読み等々、フレキシブルな心、柔軟な頭が必要でしょうね。それと多数決だけでは異なりません。熱い思い、絶対完結の強靱な心こそが、人の心が人を動かすのでしょうか。加えて科学的な審判力、情報の分析や根拠の理論化、的確な資料作りやプレゼンテーションの力も必要です。

北摂こども文化協会が、今後ますます社会の担い手となりうる存在であるためには、是非とも獲得していきたい力です。ということは、無から有を生み出すことは、誕生した事業の目的をぶらさず、よりよいもの、社会に貢献できる事業として育てていかなければなりません。生みっぱなしではいけないのです。日々研鑽です。

さて無から有を生み出した後、その有を有としてあり続けることが大切ということになりました。当協会でもたくさんの事業を生み育てて参りました。中でも豊能町で取り組んでいる「とんど焼き」は31年間続いています。「新興の町に住む子どもたちに故郷の思い出を！」と始めたものでした。今では当時の子どもたちが、わが子を連れて取組に関わったり参加者として訪れたり、世代の継承を感じています。二十数人で始めた当初の目的は、文化の継承、地域交流の場へと広がっていますが、地域になくってはならないものになり、地域の各種団体がメンバーとなる実行委員会が結成されています。有の事業を有として継続し、見守り育ててきた結果と思います。

昨今、「集団的自衛権」について取りざたされています。どうなってしまうのだろう。有事の範囲はどこからどこまでなの。「戦争はしない！」と謳っている平和憲法は変わってしまうのだろうか。さまざまな疑問と不安を抱えていながら、詳細をきくところもなく、はたまた意見を出しあうところもなく、悶々としている国民は多くいるとおもいます。

人の意見は10人10色、安倍首相が訴える「集団的自衛権」や「憲法改正」に賛成の人もいることでしょう。

当協会のコンセプトに「子どもの権利条約の普及と推進」があげられています。その中に意見表明権というのがあります。大切な権利だと思っています。この意見表明権は日本国民の権利として日本国憲法に謳われています。

子どもの権利、人としての権利を大切にしてきた私は、あくまでも私信ではありますが60数年の歴史を持つ憲法だからこそ、もっとじっくり議論をしたいと思っています。世界のどこかで戦争が絶えない中で、「戦争はしない！」と明確に謳っている憲法を持つ日本国民に、今ノーベル平和賞の授与が検討されているそうです。日本国内外で、推進の署名運動が起こっています。

あくまでも私個人の私信ですが、「戦争はしない！」と謳っている日本国憲法は人間の素朴な願いであり英知の極みだと思います。表題の一つ、「有を有のままに」の最大事項だと思ってやみません。現在でも、憲法を変えなくても臨機に対応してきたのですから。

無から有を生み出す力と共に、有を有のままに守り続ける力も大切です。人が人として生きていくこと、自分らしく生きていくこと、与えられた命を全うすることの大切な根幹は、不変です。

私は今回、「平和憲法維持は有のままに！」の意見表明をさせて頂きました。大切なテーマです。このテーマを皆様がそれぞれ自分ごととして受け止め、自分の心に問うてみるきっかけになればと、願ってやみません。

(理事長・立石美佐子)

実践「ひと山まるごとプレイパーク」の分析 一経過報告一

●只今、実践分析中！

日本こども未来研究所では、今、「ひと山まるごとプレイパーク」の教育効果を分析しています。本紙では、この間の研究の一部をご紹介します。

ひと山まるごとプレイパークとは、北摂こども文化協会が主催する、山遊びの活動です。大阪府豊能町の里山で、子ども・若者・大人が一緒になって遊びます。2001年から始まり、今年で14年目を迎えます。10年を越える年月の中、多くの子どもたちがひと山に参加してくれました。

ひと山の特徴は、第一に、基本的にプログラムがないこと。プレイパークのモットーは「自分の責任で自由に遊ぶ。」参加者の子どもたちは思い思いに自分の好きな遊びをして過ごします。探検、虫とり、川遊び、草野球に草サッカー、手作り遊具のターザンロープやモンキーブリッジ、ツリーハウスを使った遊びなど。朝の10時から午後3時前まで、たっぷり半日、自然豊かなフィールドで遊びを満喫します。

ひと山の第二の特徴は、若者ボランティアがいることです。10代後半から20代の若者が「プレイリーダー（PL）」という立場で活動に参加してくれています。

PLの役割は、子どもの遊び仲間となって、子どもの遊びを支えること。

子どもたちが自分の好きなことをして遊ぶことができるように寄り添いながら、自らも童心にかえって子どもと一緒に遊びます。また、子ども同士のつながり作りもPLの役割です。遊びを通じて、子ども同士が仲良くなるように働きかけます。

このような特徴をもつひと山は、子どもにとって、どのような意味を持つのでしょうか。それを探るべく、かつての参加者に、ひと山とはどんな遊び場だったのか、どんなことが思い出に残っているかを尋ねてみました。

●「ひと山」の思い出

今回ご紹介するのは長谷川廉くん。彼は小学校低学年から活動に参加し、中学高校でも部活の合間を縫って可能な範囲で参加を続け、10代後半からはPLとなり、立場を変えて参加。ひと山参加者きっての長期参加者です。社会人1年生となった今でもPLとして活動を支えています。今回の調査にも大変協力的で、3時間強にも及ぶインタビューに応じてくれました。ありがとう、廉くん！

以下、廉くんのインタビューの記録を基に、彼にとって「ひと山」とはどんな遊び場だったのか、ご報告します。（掲載については本人の承諾を得ています。）

■参加動機

廉くんは山で遊ぶのが大好きな自然大好きっこだでした（・・・今でも）。我が子には外遊びをさせたいと思っていた親に、今度「ひと山」が始まるけど行かないかと誘われて、参加し始めたそうです。

■波及効果

そして、参加した「ひと山」はとても楽しかった。そのため当時、親から「ひと山みたいなイベントあるから行かへんか？」と誘われると、「ひと山みたいななら（楽しいだろうから）行く」というように考えるようになったという。廉くん曰く、色んな地域活動に参加する「きっかけをつくったのが、やっぱりひと山」。

■自由な遊び場

ひと山の特徴は、なんといっても「自由」であること。自分の好きなことをする場所であり、そこが一番面白い。この点は、小学生の時から今まで、変わらぬ点だそうです。

■PLの存在

小学生のころの思い出を尋ねたところ、小学生時代は同年代の子と遊んだ記憶はほとんどなく、PLと一緒に遊んでいたと答えました。ひと山では、子ども同士で遊べることよりもむしろ、年上の人と遊ぶことが楽しみだったそうです。

■ひと山の意義

廉くん曰く、「そこやったら、自分の素が出せるっていうのがありましたね。…今もそうです。自分らしさが出せる。…ひと山に関しては、僕は自分のやりたいようにやるみたいな。…解放感があるんですね。…受け入れてくれるからじゃないですかね。」

●子どもにとって「ひと山」とは？

廉くんにとっての「ひと山」は、自由にやりたいようにやれるからこそ、解放感があり、自分らしくいられる場所である、ということが伺えます。

（理事・立石麻衣子）



やまの育の日記 その19～ほめて伸ばそう、子の個性?～

長女は6歳、長男は2歳となった我が家。娘はもちろん息子もかなり自己主張するようになり、悪戦苦闘の毎日。

小学1年生となった娘の夢はアイドル。ケーキ屋さんにお花屋さんなど毎月コロコロ変わる夢ではあるが、2か月に1回はアイドルの夢がやってくる。娘は歌とダンスが大好きで、テレビや買い物先でお気に入りの曲が流れると無意識に体が動き出すタイプ。

ある日娘が「自分で歌つくったの」と嬉しそうに一枚の紙をみせてきた。

ふりふりのワンピースにハートやリボンが大好きな乙女全開の娘。どんなメルヘンな歌を創ったのかなとある意味楽しみに歌詞を見てみると……

タイトル：きみはジュゴン

(メロディ)

ねる前にきみのことかんがえる～

あまいこの気もちとめられないね～

(サビ)

キャラメルシャワーでおはよう ぎっとぎと♪

わたがしふとんでおひるね ベっとべと♪

チョコレートの雨でめざめる ねっとねと♪

マカロンベッドでおやすみ じっとじと♪

スイーツスイーツ あいしてる～♪ おう♪

予想だにできなかった内容。実際に想像すると悶絶級の不快感。タイトルと歌詞がまったく関係なく、盗作のにおいもプンプンするが、メルヘンをかるく通り越し、カオスの世界。

しかし娘は自らの歌に絶対の自信を持っており、実際に歌って見せてくれるという。

基本、子どもは褒めて伸ばそうと思っているが、もともとほめたり、喜んだり、素直にそういう表現をするのが苦手な僕はこれから聴かされる歌に対してうまく反応できるか不安になった。こちらの心配はどこ吹く風、ノリノリの娘は2歳の弟をバックダンサーに従え準備万端。世にも奇妙なステージが始まった。

リズム・音程・振り付け、あらゆるものが破たんする中、娘は微塵も照れがなくアイドルになりきって歌っている。この歌唯一の理解者である息子は、ガニ股姿で頭を振り乱し、床に倒れこんでは悶えている。何も知らない人が見ると「除霊を受けて苦しむ幼児」なのだが、本人たちはいたって真剣で心から楽しんでいる。

「かわいかった？」

「……うん、よかったと思うよ。全部自分で考えてすごいね。感心したわ～」

そう言うと娘は嬉しそうに抱きついてきて、よくわかっていない息子も娘に抱きつきぼんぼんと優しく背中をさすっている。娘はその気になり、創作意欲がかきたてられている。

このままだと無限に新曲が生まれそうな勢いだが、しばらくは褒めて伸ばす方針でいこうと思う。

(理事・山路知之)

おすすめの絵本

夏になると、どこかに旅行にでかけたくなりますね。みなさん夏休みはいかがでしたか？

今回は旅をテーマに絵本をご紹介します。

『バスにのって』

作絵：荒井良二【借成社】

旅人がバスを待っています。ところがとっさい結局、バスには乗れません。タイトルと合っていないのですけれど、リズムに乗って旅は続いていくのです。時間を忘れてのんびりしてください。

『ピヨピヨはじめてのキャンプ』

作：工藤ノリコ【佼成出版社】

ピヨピヨシリーズ、最新作。ひよこ達が初めてのキャンプへ出かけます。かわいい絵柄ですが、よく描きこまれています。料理も本格的です。家族でキャンプに行きたくなります。

『おとうさんといっしょに おばあちゃんのうちへ』

作：白石清春 絵：いまきみち・西村繁男【福音館書店 こどものとも】

あき君がお父さんと一緒におばあちゃんのうちへ。バス、電車、新幹線と乗り継いで帰省するのです。お父さんは脳性マヒで電動車椅子が必要です。親子の日常を乗り物絵本として楽しく描いています。

『エンソくんきしゃにのる』

作絵：スズキコージ【福音館書店】

エンソ君が汽車でおじいさんの家まで一人旅です。自分で切符を買い、変わった駅弁も食べて、充実した旅です。乗り込んでくるお客さんは誰？ 読み進むとどんどん不思議なスズキワールドに迷い込みます。

『あまがえるりょこうしゃ とんぼいけたんけん』

作絵：松岡遼英【福音館書店】

あまがえるりょこうしゃシリーズ一冊目。ツアーコンダクターのあまがえる君が企画したトンボ池探検ツアー。お弁当つき500円です。テントウムシ、ダンゴムシ、カタツムリをペットボトルのグラスボートに乗せてトンボ池をご案内。物語絵本ですが、水棲生物の描写や食物連鎖が隠せず描かれており科学絵本としての価値も高いです。ほかに『ゆきやまたんけん』と、『もりのくうちゅうさんぽ』がある。

突然巨大蟻が

海外の子ども演劇祭に行って面白いのは、演劇祭のスタッフもみんな楽しんでいるという事です。日本の演劇祭のスタッフも楽しんでいるけど、なんとなく内情や裏までわかってしまうと、国民性かな、楽しみに湿り気がある気がします。海外では言葉もわからないし、ただ参加しているという立場からかな、スタッフの人たちが乾いた楽しみ方をしているっていう気がします。

今回も5月23日から31日までポーランドのワルシャワであったアジテジ世界大会に参加して感じました。

演劇祭終盤の30日と31日の昼過ぎ、大会事務局がある建物の前の広場に巨大な蟻が出現しました。着ぐるみではなく、人間の体が蟻の胴体になり、ほんとに良くできていました。手にはカスターネットのような物を持ってシャキシャキ音をさせながら歩きます。

おじゃみを30センチ大にしたような白い布でくるまれた塊が山のように積んであって、その塊の山の陰からシャキシャキ音をさせて出現します。蟻が白い塊を運び始めると、そこいらにいた子どもたちも面白がってその白い塊をもって蟻と並んで運び始めます。

塊を円の形に並べ始めて完成したら終わりと思ったら、今度はそれらを階段に移して並べ始めます。よちよち歩きの子から小学生の子どもまで面白がって運んでいました。運ぶ白い塊が近場になかったら小さい子の持っているのを取り上げる子もいたり、4つも5つも抱えて運ぼうとしている子がいたり、夏の暑い日にせっせと物を運ぶ蟻の行列と同じ事になっていました。

子どもたちは延々と楽しんでいるのですが、時間が経つと、それを見て喜んでいた親たちが子どもを呼びよせて連れて帰るので、蟻の行列はだんだん減っていきます。この作業の結末はどうなるのかものすごく知りたかったのですが、私たちも次の劇を観る予定があるので見届けられませんでした。

こんな果てしなく阿呆な事はやはり海外でしか出会えないような気がします。



ワルシャワの演劇祭で

(会員・尾崎望)

(人形劇団クラルテ・松本則子)

